

梅田オーケストラが示す「オープンデータ」の可能性

今回は、当画廊が主催しているプロジェクト「Umeda Orchestra」が行う、映像の公開実験「Umeda Orchestra」(ウメダ・オーケストラ)です。

内容は、街のあらゆる情報(オープンデータ)をひとつの画面上で見て、聴くことで街全体の鼓動を体感出来る新しい試みです。

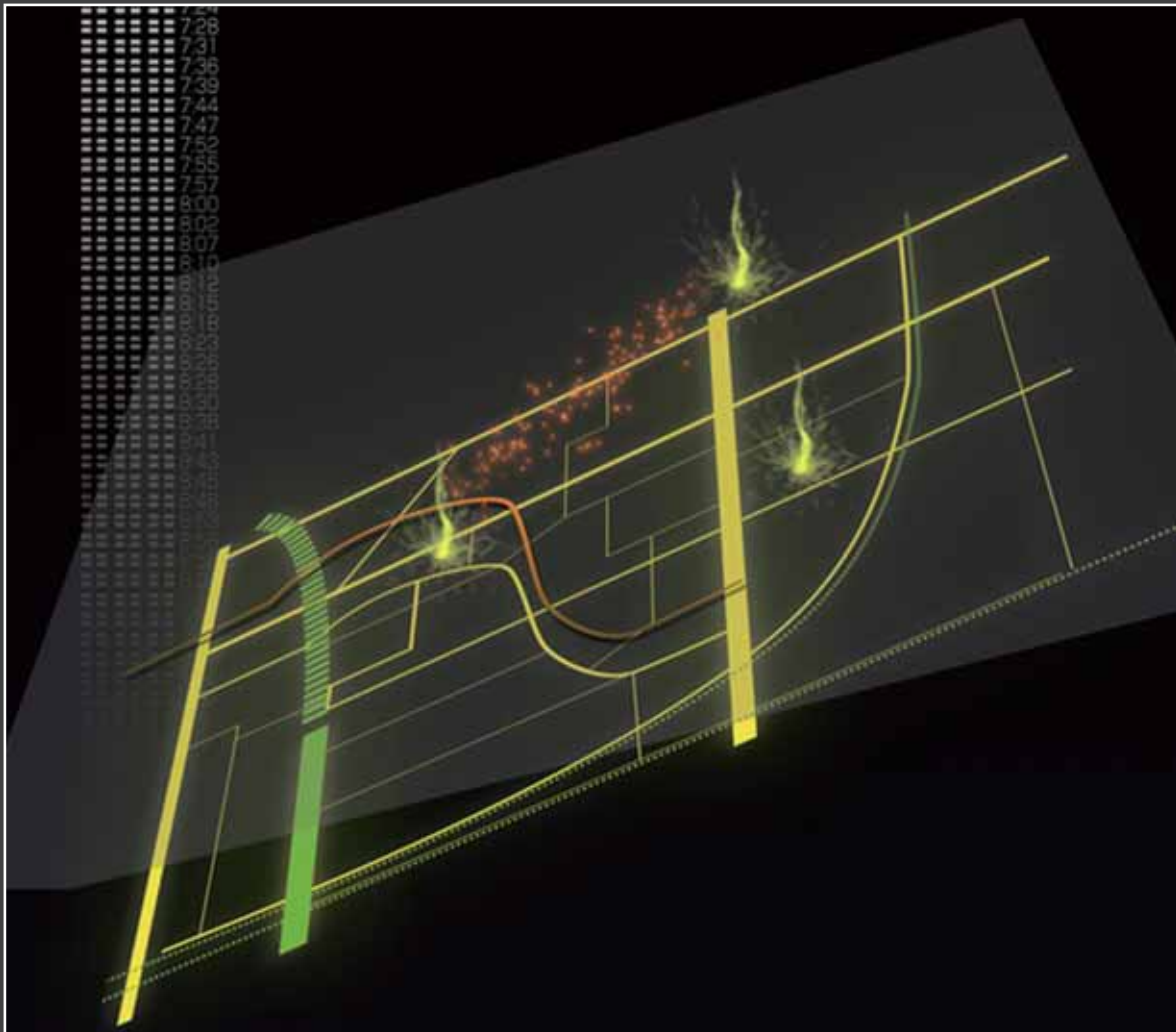
今回は当画廊がある、菜の花が咲き乱れる春の茶屋町を舞台に、阪急電車をはじめとしたこの街を網羅する交通インフラのダイヤに焦点をあて、ひとつの展開例としてまちづくりの視点から捉えてみました。この街から時間ごとに発車し、走っていく電車に「光と音階」を与えることで街全体を時間軸でとらえ、無作為のオーケストラ(音楽)にならないだろうか、という発想です。

私達がこの映像に込めたのは、「オープンデータが活用されていくと、どんな未来がまっているか」という可能性です。今は制作者から見た活用しやすいオープンデータはそう多くはありませんが、これから様々なデータが公開されるに従って、展開の幅は広がっていくでしょう。

オープンデータ活用の第一歩であると同時に、梅田(茶屋町)を起点として日本のオープンデータの先進を大阪が走っていけないだろうか、という可能性への投げかけでもあります。

企画・技術…吉岡 史樹
映像…竹野 智之
制作補助…三上 紗慧

オープンデータ×茶屋町



2015.04.05(sun) → 04.07(tue)

Umeda Orchestra

……… — 梅田の鼓動と菜の花の調べ — ……

■ オープンデータとは？

「特定のデータは全ての人に公開され、自由に利用されるべきである」という新しい概念です。「特定のデータ」とは、インフラ情報(鉄道・バス・水道や地図など)やそれに準ずる公共性の高い施設やサービスのデータがそれに当たり、海外では、行政と民間の協力によって多くの情報が公開され、活用されています。

日本においても、総務省が主導となり、各自治体がデータを公開したりしながら、活用を模索しており、大阪市主催のオープンデータ活用アプリコンテストなども開催されています。今後おそらく、この状況は加速し、あらゆるインフラ情報を使って誰でもが自由に便利なサービスを開発できる世の中が到来します。

それはつまり、今までは不便を感じていた外国人や来街者への新しいサービスの提供や多言語対応、トイレ不足など地域が抱える不便の解消にも繋がると同時に、街の活動をひとつひとつ単体の情報としてとらえるのではなく、横の繋がりで見るができるようになるということでもあります。

